

「ありがとう！フェリペ父様」

岡本 幸代

皆様こんにちは。本日の主のご復活のミサは、いつもより少し久しぶりのメンバーの顔ぶれを見て嬉しくなった私ですが、我が二人娘もコロナ禍以来ちよつと休み癖がつき、教会の優先順位は低く、塾や部活、バイトに忙しくて、本日もやつと揃ってご復活のミサに与ることができませんでした。

でも娘達はフェリペ神父様（杖ついでる神父様と言っていました）の最後にお見送りができず、私はとても残念な気分でした。

昔からどうしてもお説教の時は聞いているうちにウトウトしてしまうのですが、私はユーモアたっぷりのフェリペ神父様のお説教がとても好きでした。

一番印象的だったのは、「イエス様って何？神様の子供？光？そう愛です！」「GMでもやってみるでしょ？そこに愛はあるんか？って」「あー、愛が一番、アイフル♪思わず、知ってる知ってるって笑い口ずさみ…多分この宣伝を見るたびに神父様を思い出します^(^_^)」

そしてもう一つは長いスプーンのお話し。天国と地獄、それぞれに沢山の人がおいしそうなご馳走が並ぶテーブルの前に椅子に縛られ、

片方の手に長い長い長いスプーンを巻き付けられています。地獄の人々はこの長いスプーンのおかげで食べることができず、不満や愚痴、恨みばかりで鬼の形相になり、痩せこけて飢餓の苦しみを味わい続けます。天国の人々は、同じ状況でも笑顔で満ち足りています。その長いスプーンを使って他の人の口に食べ物を運び、お互いに食べさせあつて満ち足りています。

天国と地獄には違いがないけれど、自分のことばかり考えている人の集団が地獄で、相手も思いやり、困っている相手をまず助けてあげたいと考えている人の集団が天国なのです。

教会では有名なお話かもしれませんが、私は初めて聞いたお話でもとても興味深く、考えさせられるお話でした。

今の世界、日本、唐崎教会、家庭の中で自分よりまず相手を思いやり優先する気持ちを持つことができる人が増えれば増えるほど、人々は鬼の形相から幸せな顔へ、平和な日々へ近づいていくことができるでしょう。

いつも神様を身近に感じさせて下さり、心に残るフェリペ神父様のお説教、本当に感謝しています。ありがとうございました。

またいつか唐崎教会へ戻ってきて下さいますように。

「ご機嫌よう！フェリペ父様」

永井 邦子

不自由な足で、遠路はるばる私共の小教区にお越し下さりありがとうございます。

「遠いところをありがとうございます。」と申し上げると、「全然、遠くないよ。」とおっしゃってください、お疲れの様子もなく安堵をいたしました。神父様のお説教をきいて、日本の儀礼的な贈りものの慣習について、今一度考えを反省する機会をいただきました。

キリストは、聖体という形をとって、贈り物の原点を教えてくださいといるということに、改めて気づかされました。

どうぞ健康に留意して、司祭職を全うされますことをお祈りしております。

